

かんがえよう とも友だちのこと

1 とも友だちとさい会

大きな地しんやつなみによって、しばらくの間、学校の友だちと会えない日がつづきました。次の作文を読みましよう。

「これから、どうなるんだろう。」

「あいちちゃん、ぶじだったかな。今、何をしているんだろう。」

「早く学校に行きたいな。」

と、友だちや学校のことを、思いうかびました。

何日かして、学校に行きました。体いくかんはひなんじよでした。

そのときです。

「だいじょうぶだった。こわかったね。」

と、ひさしぶりに会ったあいちちゃんが、かけよって来ました。さびしく、かなしかった心に、あかりがともりました。つないだ手から、あいちちゃんのあたたかさがつたわりました。

しんさいは大へんだったけれど、友だちがどんなに大切かが、よく分かりました。

(女の子の作文)



2 ささえてくれた友だち

ひなんじよで、ぼくと同じ年のりょうくんに出会った。こんなときなのに、ぼくたちはすぐ友だちになった。

それからは一しよにあそぶことが多くなった。ぼくの気もちは少しだけ明るくなった。外では、ひみつき地作りやおにごっこ。中ではゲームをした。二人でいろいろな話をしている。つらい気もちが少しずつへっていった。毎日が楽しくなっていた。

ぼくが元気になったのは、りょうくんがいてくれたからだ。

りょうくん、ありがとう。

(男の子の作文)



たいいくかん 体育館のひなんじよのようす



そつぎょうしきでひさしぶりにさい会した六年生



あなたが「友だちがいてよかった」とおもうのはどんなときですか？ 考えてみましょう。